2023年度学生生活基本調査報告

学生委員会

1. 実施概要

・調 査 目 的:学生の生活状況や要望等を把握し、今後の学生支援サービスの向上や施設・設備面の改善に役立てるために、毎年実施。

・実 施 期 間:2023 年 10 月 9 日（月）から 11 月 30 日（木）まで

※11/30 時点での回答率により、12/25 日まで実施期間を延長。

・調査対象者:全学部・全学年の学生 4,229 名

・調 査 方 法:全学年ゼミの授業の中で調査依頼。C-learning システム上で回答。

・回 答 総 数:1,687 名（回答率 39.9%）

参考（過去回答率）:2022 年度 50.0%、2021 年度 23.4%、2020 年度 10.7%、2019 年度 49.1%、

2. 調査回答者人数内訳

学部名	調査対象学生数	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	合計	回答率
法学部	989	146	105	112	68	431	43.6%
経済経営学部	1,046	109	111	97	95	412	39.4%
メディア情報学部	669	51	49	31	22	153	22.9%
現代文化学部	13	－	－	－	0	0	0%
スポーツ科学部	889	158	133	79	25	395	44.4%
心理学部	623	105	84	62	45	296	47.5%
合計	4,229	569	482	381	255	1,687	39.9%

表 1　調査回答者の学部別・学年別人数内訳

調査回答者 1,687 名の学部別では、法学部 431 名、経済経営学部 412 名、メディア情報学部 153 名、スポーツ科学部 395 名、心理学部 296 名である。学年別では、1 年生 569 名、2 年生 482 名、3 年生 381 名、4 年 255 名で、学年が高くなるつれ、回答率が低くなっている（**表 1**）。なお、過年度生のみ所属の現代文化学部（13 名）回答者は 0 名であった。

3. 学生生活全般について

(1)住居形態(現在の住まい)

現在の住まい（**図 1**）では、2023 年では「家族と同居」が 58%と一番高い割合となっており、次いで「一人暮らし（ｱﾊﾟｰﾄ・ﾏﾝｼｮﾝ）」の 26%と続き、2022 年度の調査結果とほぼ同様な割合となっている。

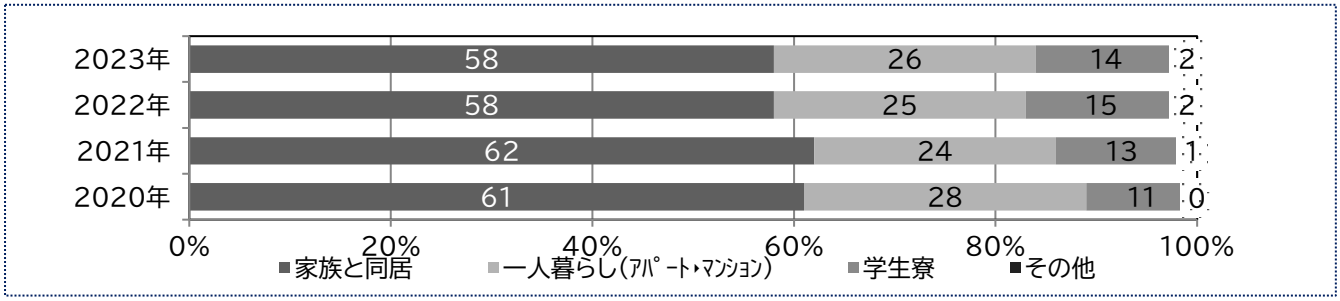

図 1　住まい（2020 年-2023 年）

（2）通学手段

通学手段（図 2）を見ると、2023 年のスクールバスを利用している学生が全体の 69%（飯能駅 1%、東飯能駅 14%、元加治駅 40%、金子駅 14%）と、例年の割合（2022 年 68%、2021 年 69%、2020 年 72%、2019 年 68%）と比べ大きな変化はなかった。

なお、2023 年度の秋学期より、飯能便運行ルート上にある JR 八高線高架下の阿須ガード拡幅工事による通行止めに伴い、スクールバスの運行体制を大きく見直し、飯能便の大幅減便とともに、東飯能便の運行を新たにスタートしたが、東飯能便利用者が 14%と従来の飯能便利用者が東飯能便に流れている結果となっている。

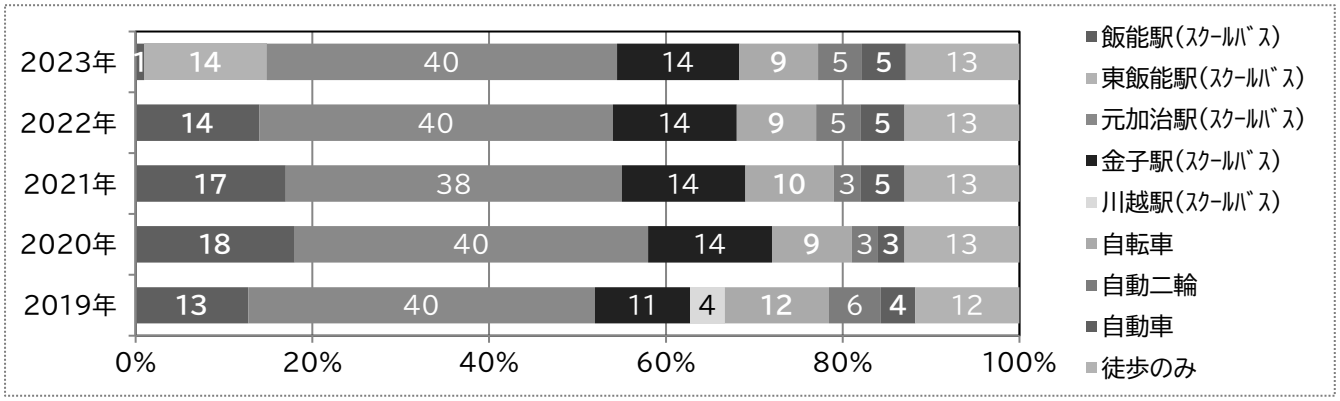

図 2　通学手段（2019-2023 年）

（3）アルバイト

①アルバイト時間

週平均アルバイト時間（図 3）では、コロナ禍によりアルバイト先の営業自粛や時短営業、休業などの影響もあり、アルバイトを「していない」と回答した割合が 2020 年で 43%、2021 年で 36%と高い水準であったが、2022 年では 28%、2023 年では、さらに「していない」割合が減少し 24%であった。このことから、学生アルバイト募集の求人がコロナ禍前の水準に回復したものと言える結果となった。

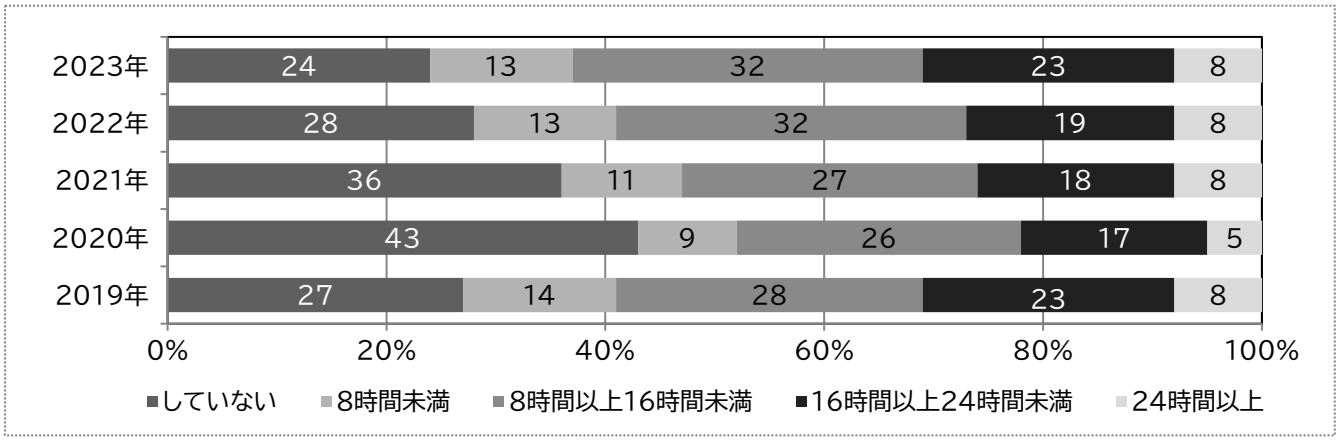

図 3　長期休業期間以外の週平均アルバイト時間（2019-2023 年）

学部別で週平均アルバイト時間（図 4）を見ると、アルバイトを「していない」と回答した割合が最も高かったのはメディア情報学部の 29%であった。次いで、心理学部の 28%、スポーツ科学部 27%、法学部の 24%となっており、アルバイトを「していない」割合が一番低かったのは経済経営学部の 18%であった。

一方、週平均のアルバイト時間数で 8 時間以上（「8 時間以上 16 時間未満」、「16 時間以上 24 時間未満」、「24 時間以上」）と回答した割合が最も高かったのは、経済経営学部

の 70%であった。次いで、法学部の 63%、スポーツ科学部の 61%、心理学部の 58%と続き、割合が一番低かったのは、メディア情報学部の 54%であった。

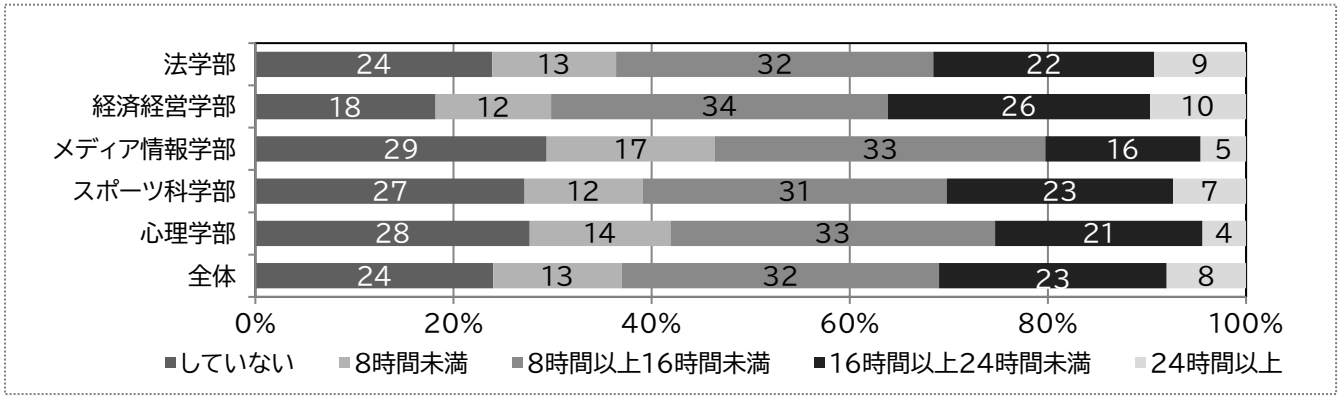

図 4　長期休業期間以外の週平均アルバイト時間（2023 年・学部別）

②平日のアルバイト時間帯

平日のアルバイトの主な時間帯（**図 5**）では、2023 年は「アルバイトはしていない」人を除くと、「夕方以降 0 時前まで」と回答した割合が最も高く全体の 40%であった。また、「夕方以降 0 時過ぎまで」の割合は、コロナ禍の影響があった 2020 年は 6%、2021 年は 5%と少ない割合であったが、2022 年は 11%と増加し、2023 年も 10%と同様な割合の結果となっている。

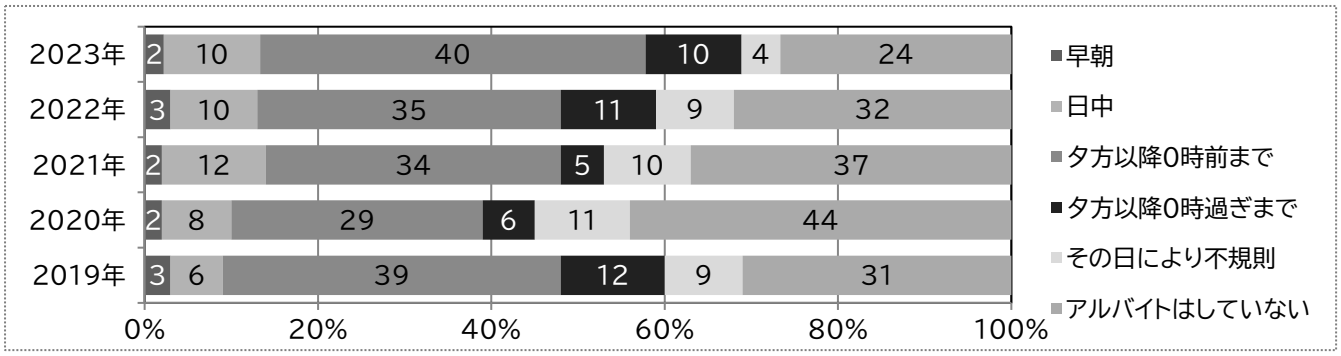

図 5　平日のアルバイトの主な時間帯（全学部、2019-2023 年）

③アルバイトの収入金額

アルバイト収入金額(**図 6**)では、2023 年は「アルバイトはしていない」人を除くと、「5 万円～10 万円未満」と回答した割合が最も高く 43%で、次いで「3 万円～5 万円未満」が 19%と続く。収入金額の割合の傾向としては、コロナ禍前 2019 年の「5 万円～10 万円未満」の割合 37%より 2023 年は 43%と増えていることから、アルバイト環境などは、コロナ禍前より好転している状況が見受けられる結果となった。

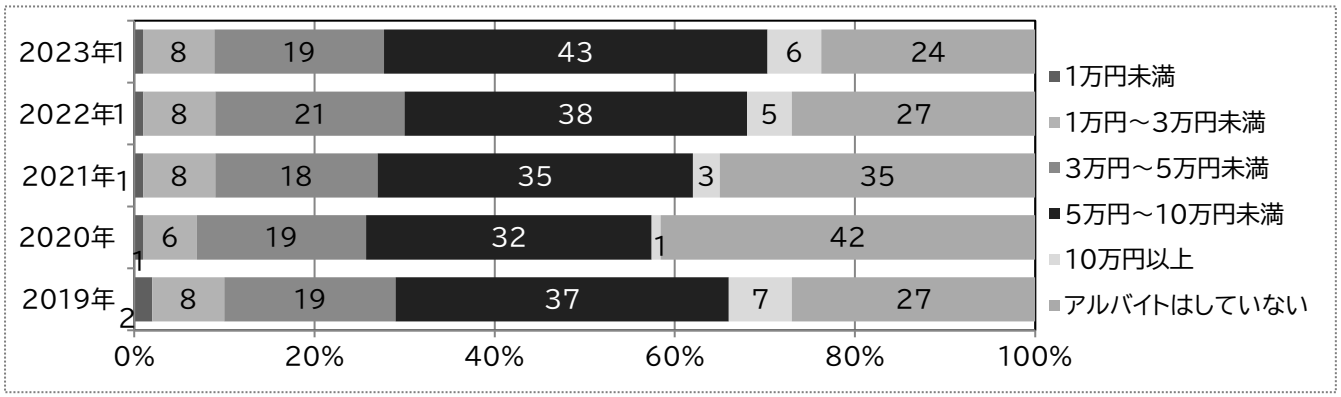

図 6　アルバイト収入金額（全学部、2019 年-2023 年）

④前年と比べたアルバイト収入の変化

前年（2022 年）と比べたアルバイト収入の変化**（図 7）**では、無収入になった人を含め、収入が減った（「10％～20％減った」「30～50％減った」「半分以下になった」）と回答した割合は 16％であった。一方、前年（2022 年）より収入が増えた（「10～20％程増えた」「30～50％増えた」「50％以上増えた」）と回答した割合は 25％で、2022 年の調査で 2021 年より収入が増えたとして回答された割合の 15％から大きく増加した結果となった。

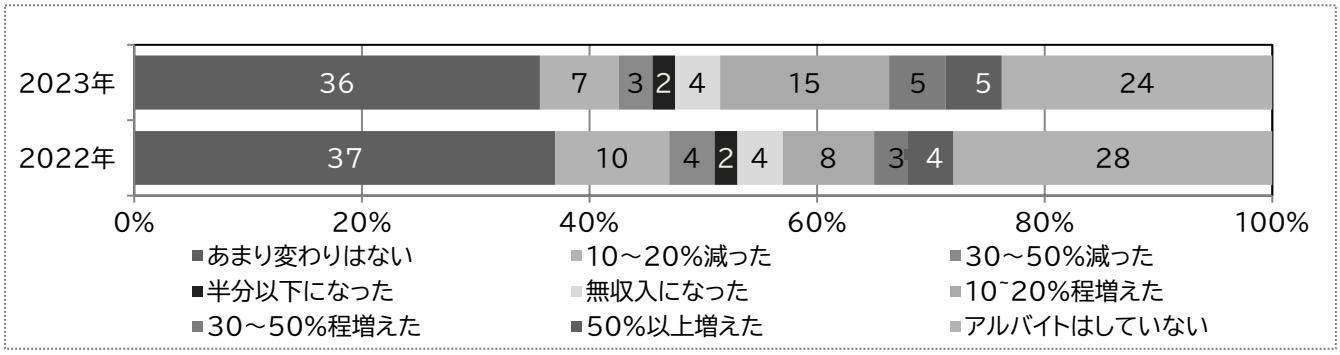

図 7　前年（2022 年）とのアルバイト収入変化（全学部、2023 年）

⑤アルバイト収入の使途

アルバイトをしている学生における収入の使途**(図 8)**では、例年の傾向と同様であるが、2023 年の使途割合でも「趣味・娯楽」「飲食費」「服飾費」などの割合が高く、2022 年と比較しても、割合が増加している結果となった。一方、「預貯金」や「通学費」の割合は年々減少していることからも、コロナによる抑制された生活から解放され、より自分の生活を豊かにするためにアルバイト収入を使うことが主目的になっているとも言える結果となっている。

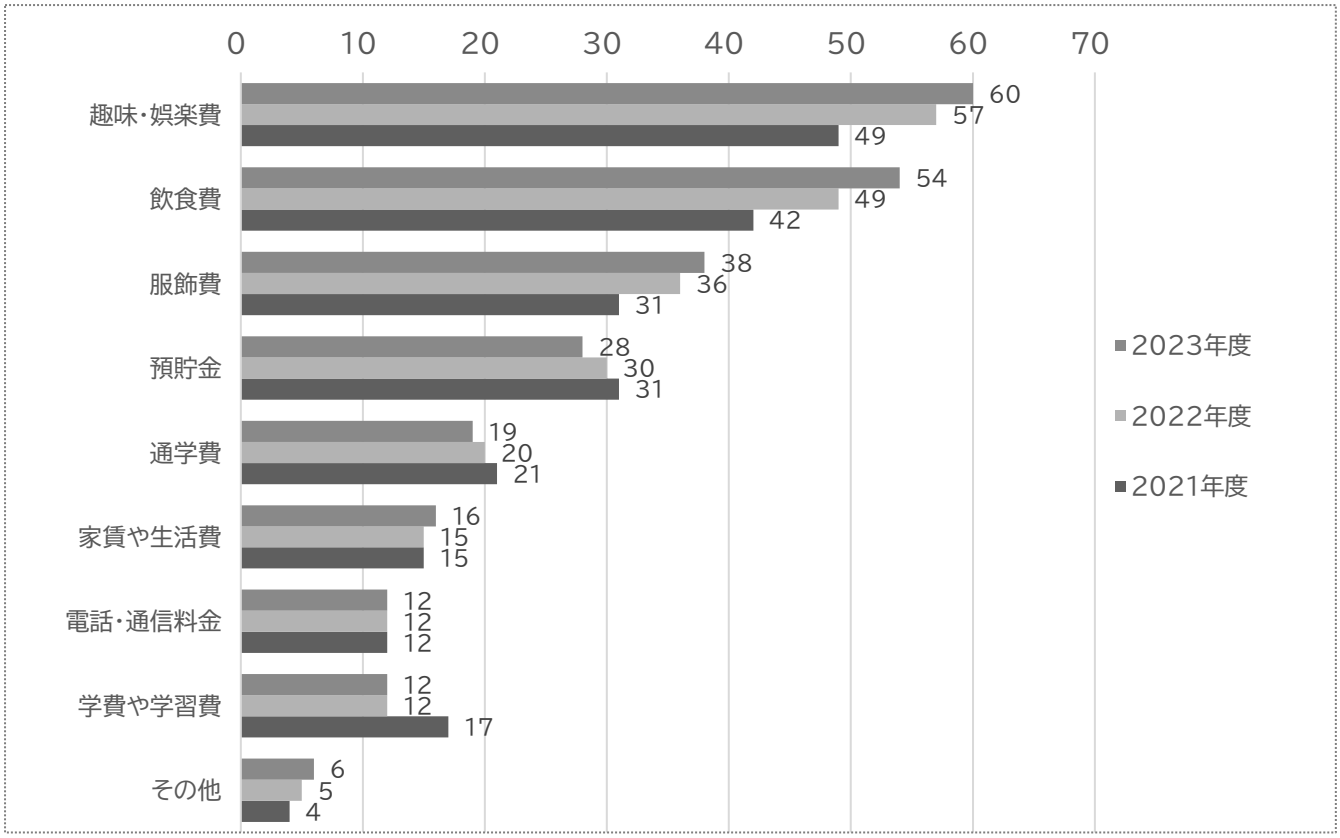

図 8　アルバイト収入の使途（複数回答、単位：%, 2021-2023 年）

（4）学修について

①学修時間（週平均）

授業以外での週平均学修時間（**図 9**）をみると、2023 年の学修時間では全学部で「0 分」が 12%、「30 分未満」が 13%、「30 分～1 時間」が 20%と、1 時間以内の割合が全体の 45%となっており、2022 年の 43%と比較すると、ほぼ同様な割合となっている。

2020 年、2021 年は「オンライン授業での課題取組などに要した時間が増えた」ことが学修時間増加の要因として挙げられていたが、コロナ禍前の 2019 年は、学修時間「0 分」が 21%であったことに対し、2022 年、2023 年とも 12%と、全く学修に割く時間がない者の割合がコロナ禍前よりも減少している点は、コロナによるオンラインなどの学修環境の変化が、学修意慾への変化をもたらした部分も少なからずあったのではないかと考えられる。

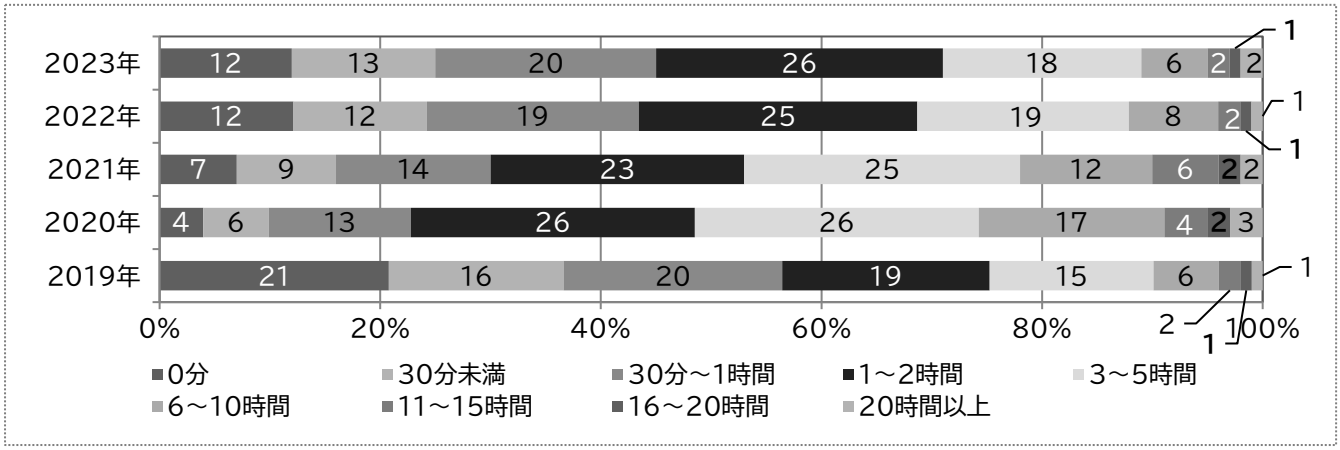

図 9　授業以外での週平均学修時間（2019-2023 年）

2023 年の学部別学修時間（**図 10**）を見ると、いわゆる学修に割く時間が少ない割合が多いともいえる、学修時間が 1 時間未満（「0 分」「30 分未満」「30 分～1 時間未満」）の割合が最も高かったのがスポーツ科学部の 62%（2022 年 56%）、次いで経済経営学部の 48%、法学部の 40%、メディア情報学部の 35%と続き、心理学部が 34%と一番低い割合となっている。また、3 時間以上（「3～5 時間」、「6～10 時間」、「11～15 時間」、「16～20 時間」、「20 時間以上」）の割合では、心理学部が 38%と一番高く、次いでメディア情報学部の 34%、法学部の 33%、経済経営学部の 27%と続き、スポーツ科学部が 15%と一番低い割合となっている。

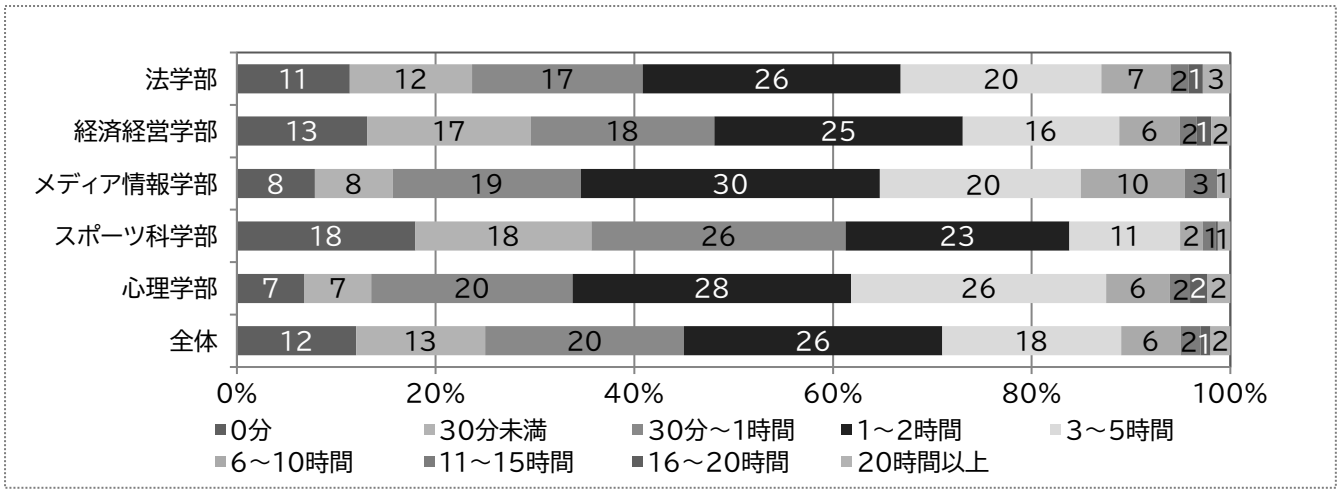

図 10　授業以外での週平均学修時間（2023 年・学部別）

②熱心に取り組むことができる授業割合

熱心に取り組むことができる授業（図 11)を見ると、2023 年の熱心に取り組むことができる授業割合では、「50％程度」が 32％と一番高い割合となっており、次いで「70％程度」の 27％、「80％以上」の 21％となっている。

なお、コロナが始まり原則全面オンライン授業となった 2020 年に、熱心に取り組む授業が「80％以上」と回答した割合が 24％と高かった点は、学生にとって、オンライン授業の有効性を感じ取って部分もあったのではないかと思われる。

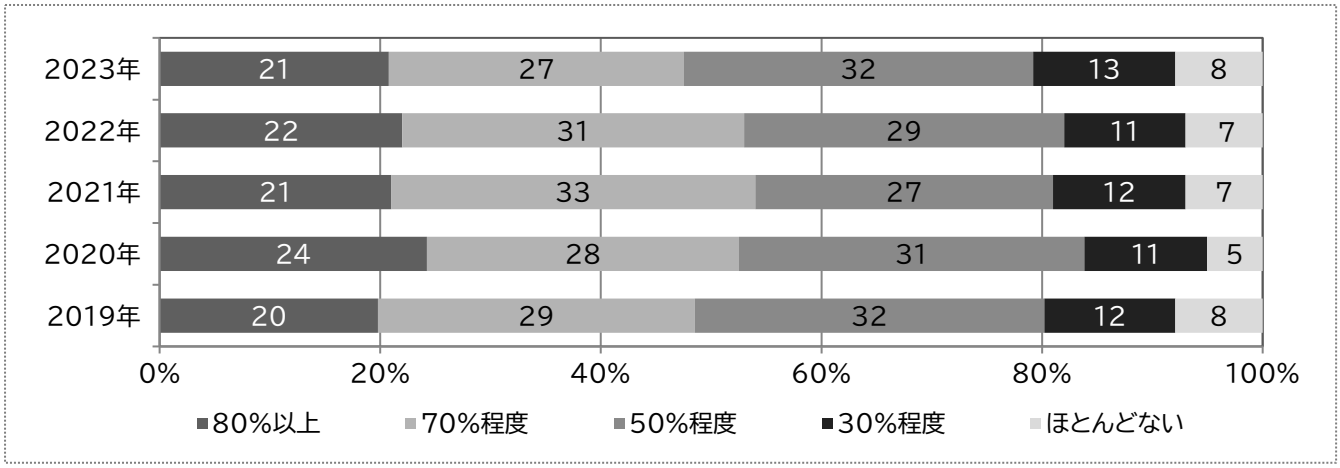

図 11　熱心に取り組むことができる授業（2019 年-2023 年）

また、熱心に取り組むことができる授業の 2023 年学部別の割合(図 12)を見ると、「80％以上」と回答した割合では、法学部の 24％が一番高く、次いで経済経営学部、心理学部の 22％と続き、メディア情報学部、スポーツ科学部は 16％となっている。

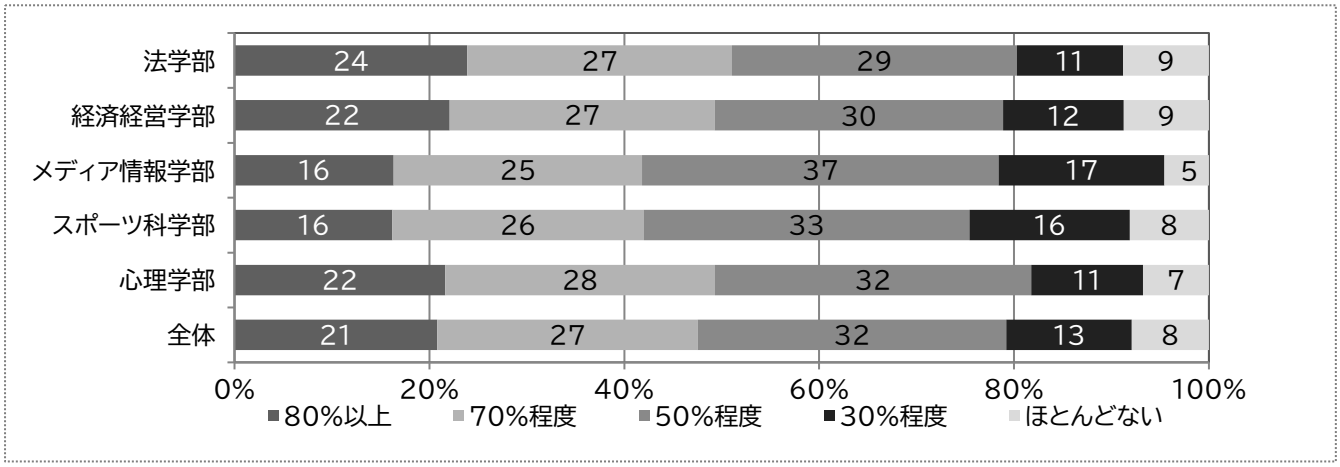

図 12　熱心に取り組むことができる授業割合（2023 年・学部別）

③授業でわからないことや勉強の仕方など教員などに相談しているか。

授業でわからないことなどの教員への相談（図 13)では、「あまりしていない」と「全くしていない」の割合が 36％となっている。

「全くしていない」割合では、2022 年の 33％から 2023 年は 36％と若干高い割合とはなったが、2019 年の 52％、2020 年の 49％、2021 年の 47％と比較すると割合は低くなっている。

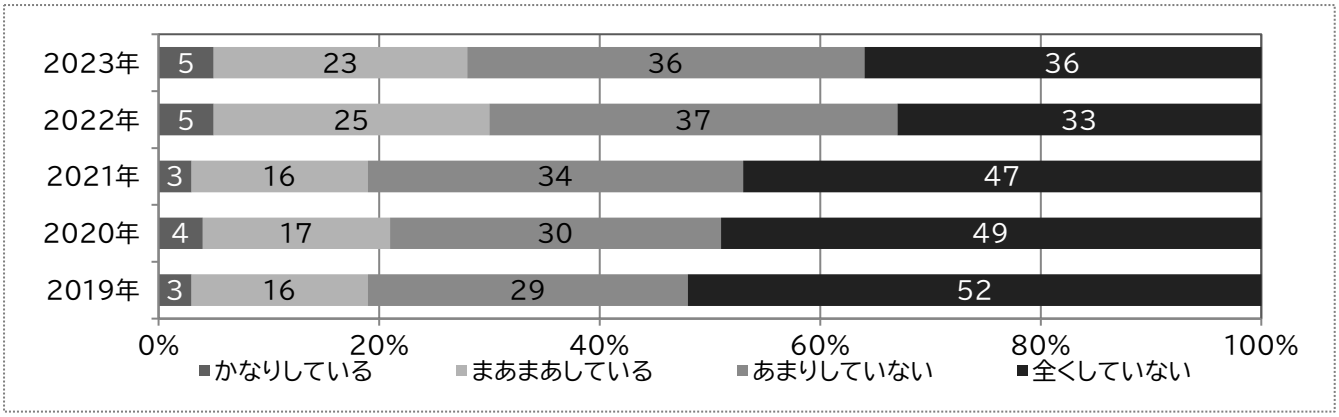

図 13　授業でわからないことや勉強の仕方の教員への相談（2019 年-2023 年）

授業でわからないことなどの教員への相談の割合を学部別（図 14）で見ると、「かなりしている」と「まあまあしている」の合わせた割合では、メディア情報学部が 39%と一番高く、一方、スポーツ科学部が 22%と一番低い割合となっている。

スポーツ科学部については、教員への相談割合の少なさと、学修時間の少なさに一定の相関性が見受けられるが、一方、学修時間 3 時間以上の割合（図 10 参照）が一番高かった心理学部が、教員への相談を「全くしていない」割合が比較的多い点については、教員とうまくコミュニケーションを図ることに苦手意識を持つ傾向があるのではないかと推測される。

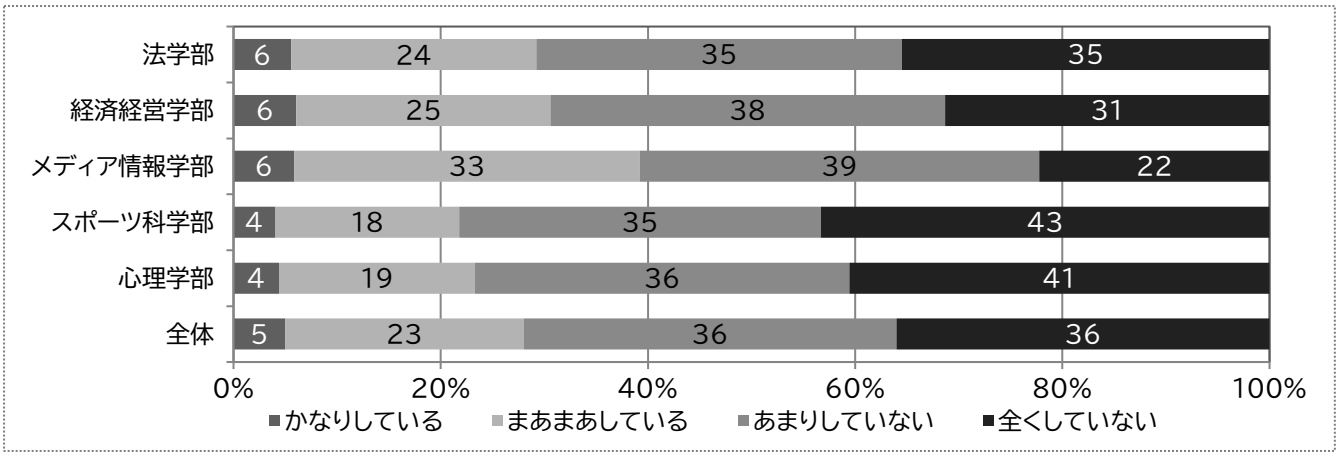

図 14　授業でわからないことや勉強の仕方の教員へ相談（2023 年・学部別）

4. 課外活動について

課外活動として、2023 年の運動部（部活動）・サークルの所属有無（図 15）を見ると、全体では、「運動部（部活動）」が 22%、「サークル」が 22%、「所属していない」が 56%であった。

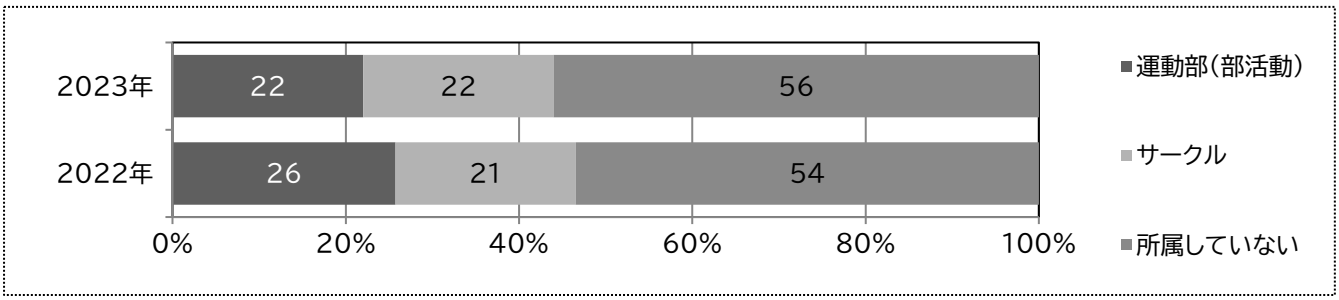

図 15　課外活動（部活動・サークル活動）所属（2022 年-2023 年）

学部別の「運動部（部活動）」、「サークル」の所属割合（図 16）を見ると、「運動部（部活動）では、スポーツ科学部が 54％と圧倒的に高く、次いで法学部の 16％、経済経営学部の 15％、心理学部の 8％と続き、一番低い学部は、メディア情報学部の 6％であった。

一方、「サークル」所属割合では、心理学部の 35％が最も高く、次いでメディア情報学部の 32％、法学部の 22％、経済経営学部の 17％と続き、一番低い学部はスポーツ科学部の 14％であった。

また、「運動部（部活動）」、「サークル」のどちらにも所属していない割合が一番高い学部は、経済経営学部の 68％となっている。

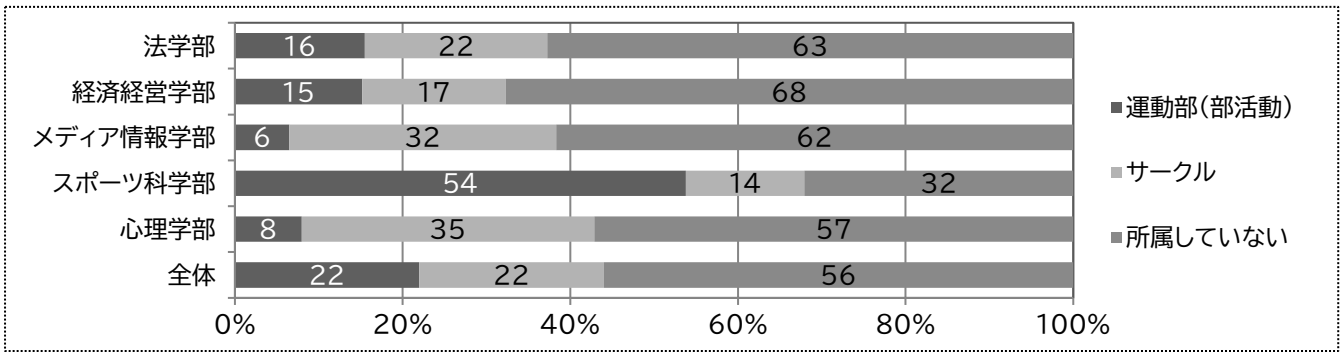

図 16　課外活動（部活動・サークル活動）所属（2023 年・学部別）

学年別で 2023 年の運動部・サークルの所属割合（図 17）を見ると、どちらにも所属していない割合が 3 年次で 61％、4 年次では 76％と高くなっている。特に、4 年次は、入学直後にコロナ禍の影響を受けた年次であり、その際の入構制限や課外活動の制限などが大きく影響した年次であることも見て取れる結果となった。

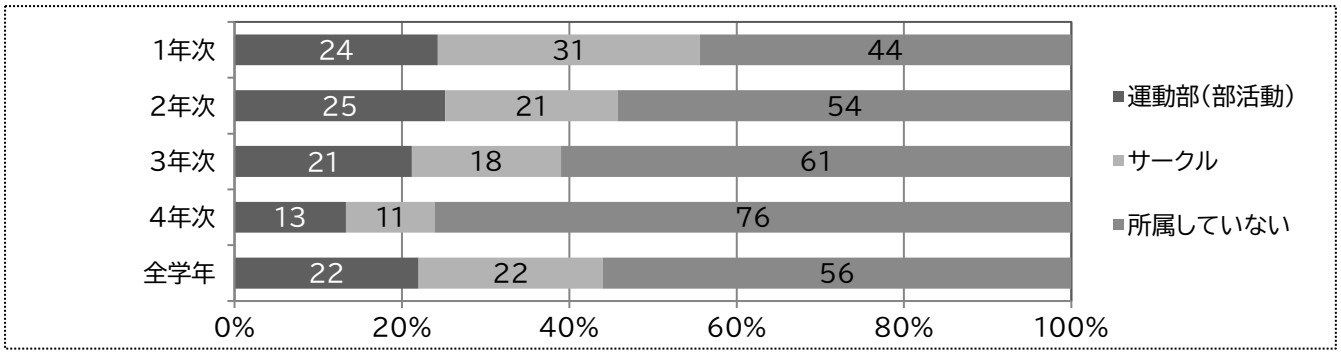

図 17　課外活動（部活動・サークル活動）所属（2023 年・学年別）

5.「ポタロウ」について

2021 年 4 月より、「ポタロウ」が新しくリニューアルされたことを受け、2022 年に引き続き、2023 年も「ポタロウ」の利用状況調査を行った。

(1)「ポタロウ」にアクセス（閲覧）するデバイス

「ポタロウ」にアクセス（閲覧）するデバイス（図 18）は、「スマートフォン」が 87％と圧倒的に多い結果であった。

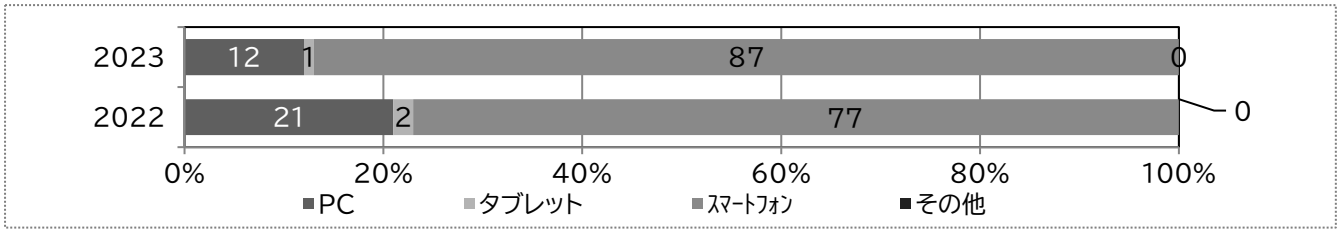

図 18　「ポタロウ」にアクセスするデバイス（2022 年-2023）

(2)「ポタロウ」にアクセス(閲覧)する頻度

「ポタロウ」にアクセス（閲覧）する頻度（図 19）では、頻繁（「1 日 1 回以上」「週に 3～6 回」）に閲覧する学生の割合は、大学全体で 77％であった。

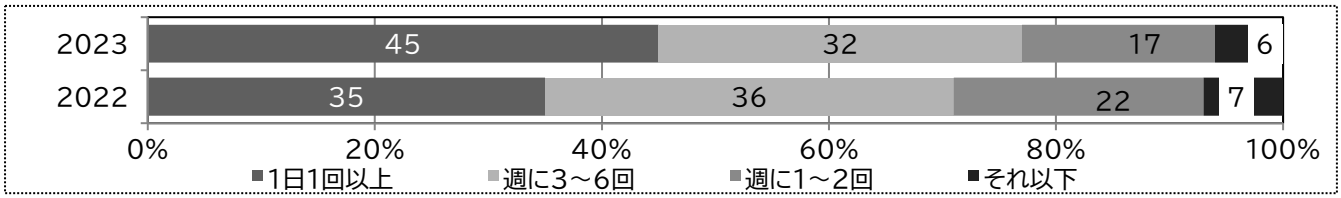

図 19　「ポタロウ」アクセス（閲覧）頻度（2022 年-2023）

学部別のアクセス（閲覧）頻度（図 20）を見ると、頻繁（「1 日 1 回以上」「週に 3～6 回」）に閲覧する学生の割合が一番多かったのはメディア情報学部の 85％で、逆に一番少なかったのは経済経営学部の 70％であった。

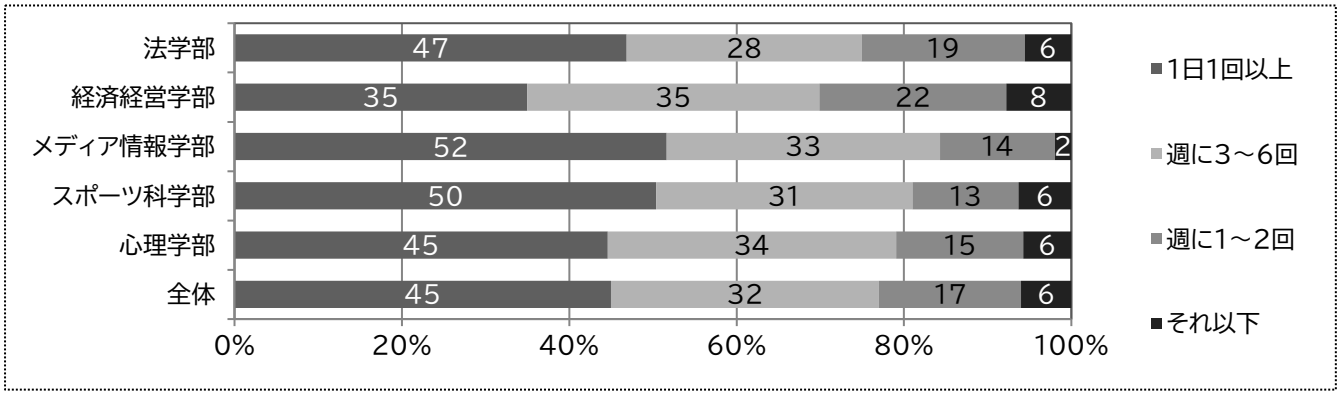

図 20　「ポタロウ」アクセス（閲覧）頻度（2023 年・学部別）

また、学年別でのアクセス（閲覧）頻度（図 21）では、頻繁（「1 日 1 回以上」「週に 3～6 回」）に閲覧する学生の割合が一番多かったの 2 年次の 88％で、次いで 1 年次の 87％であったが、4 年次では 45％と大きく割合が低くなる結果となった。

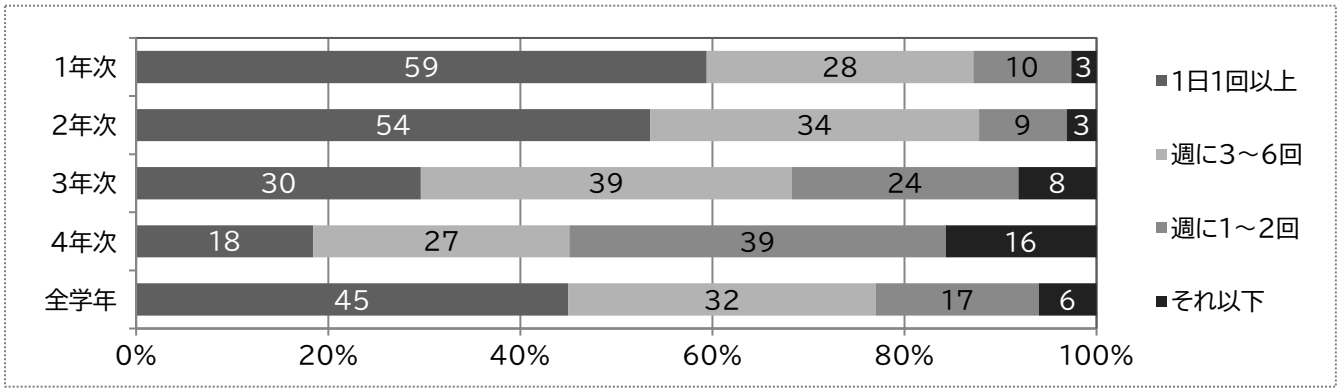

図 21　「ポタロウ」にアクセス（閲覧）頻度（2023 年・学年別）

(3)「ポタロウ」のスマホアプリからプッシュ通知での掲示を受け取ったことがあるか

プッシュ通知での掲示を受け取ったことがあるか（図 22）では、1 年次で受け取っている割合が 57％と多く、学年が上がるにつれ割合が低くなっている（2 年次 49％、3 年次 39％、4 年次 35％）。なお、スマホアプリをインストールしていない学生の割合では、大学全体で 10％となっており、学年別では、1 年次が 7％、2 年次 7％、3 年次が 13％、4 年次が 17％となっている。

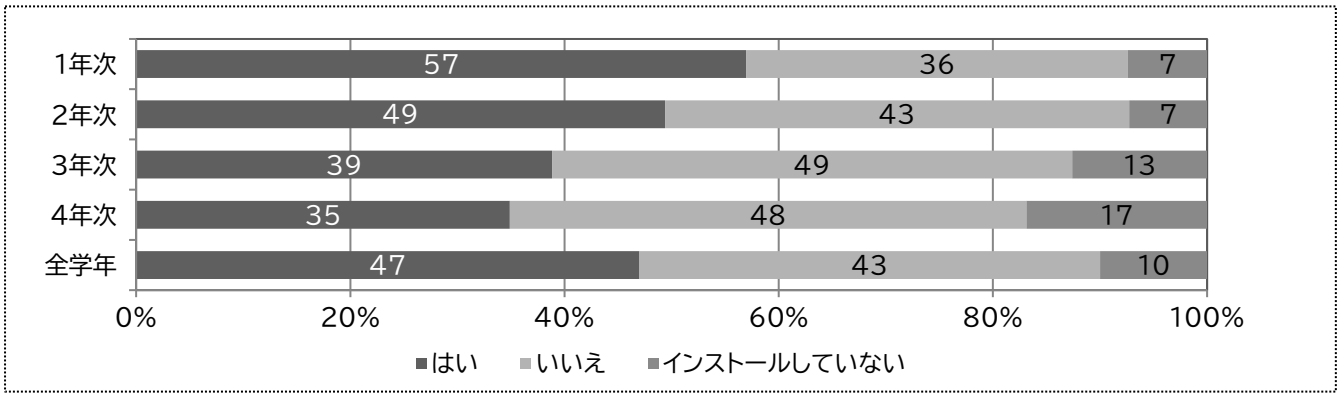

図 22　「ポタロウ」のスマホアプリからのプッシュ通知（2023 年・学年別）

(4)「ポタロウ」に満足している点

2023 年の満足している点（図 23）では、「スマホ出席が使いやすい」が 59%、「掲示が分かりやすい」が 43%と満足している割合が多かった。

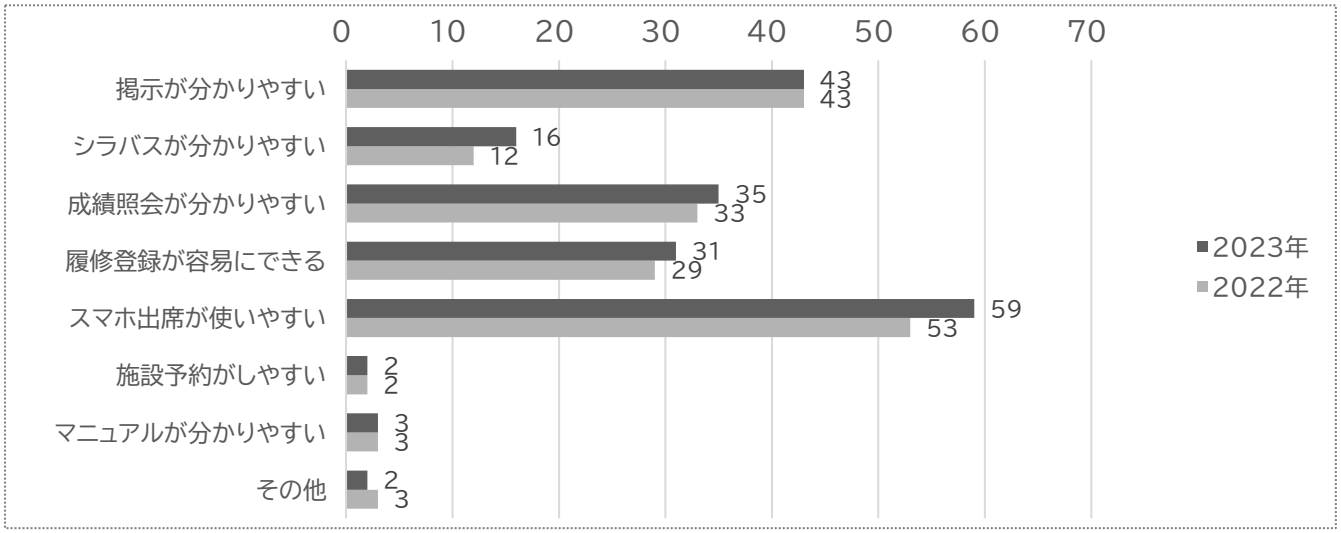

図 23　「ポタロウ」の満足点（複数回答、単位：%、2022 年-2023 年）

(5)「ポタロウ」に不満に思っている点

不満に思っている点（図 24）では、「掲示が分かりにくい」が 30%と一番多く、次いで「シラバスが分かりにくい」の 24%、「施設予約が分かりにくい」の 20%であった。

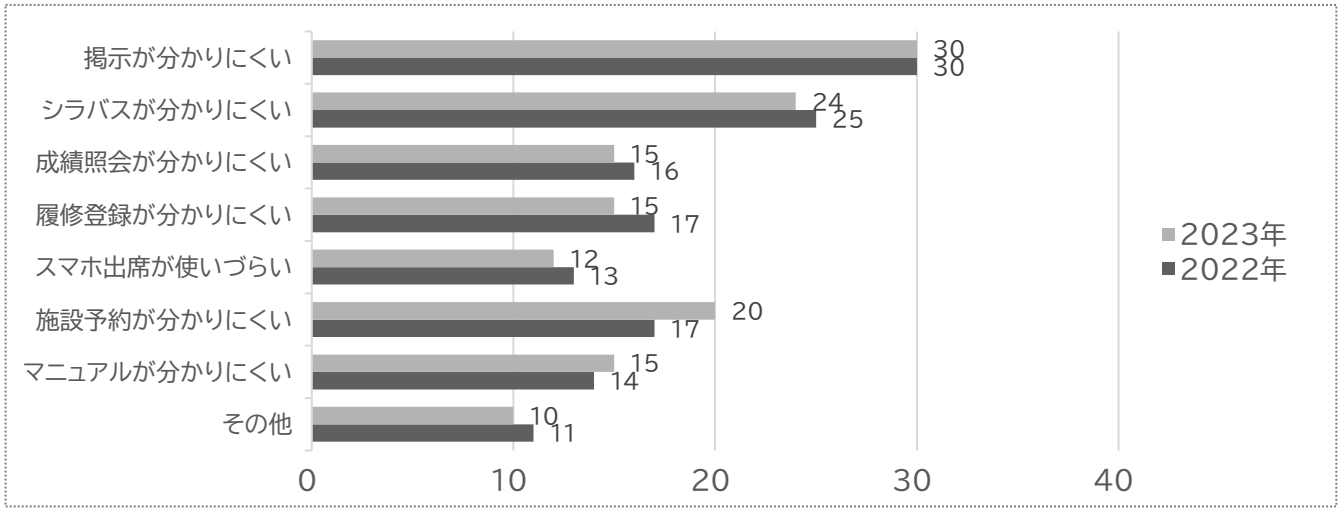

図 24　「ポタロウ」の不満点（複数回答、単位：%、2022 年-2023 年）

6. スクールバスの満足度について

スクールバスへの満足度（図 25）について、2023 年では「満足している」が 16%、「まあ満足している」が 20%であった。

なお、「満足している」割合は、2020 年は 34%、2021 年は 29%、2022 年は 17%であったことから、2023 年の 16%より高い割合となっていたが、2020 年と 2021 年は、コロナ禍のオンライン授業などにより、通学機会が少なくなるなど、スクールバス利用頻度が減少したことにより、大きな不満もなかったのではないかと推測される。

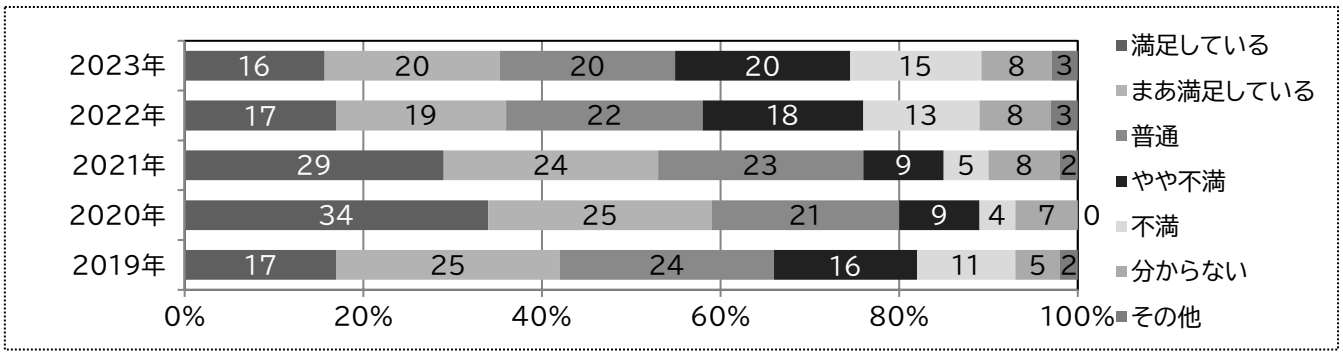

図 25　スクールバス満足度（2019-2023 年）

2020 年より運行を休止している川越便を除くスクールバス利用駅ごとの満足度（図 26）では、金子駅の不満（「不満」+「やや不満」）の割合が 72%と高い割合となっており、ＪＲ八高線で新たに東飯能便の運行を開始したことに伴い、従来のダイヤから時間帯により減便となるなど、従来からの金子便利用者の不満が増えてしまったことが考えられる。

また、飯能駅の不満（「不満」+「やや不満」）の割合が 50%となっているが、2023 年 9 月 11 日以降、阿須ガードの拡幅工事による運行ルート変更に伴い、大幅な減便対応などもあり、利用者は少ない状況ではあるが、従来の飯能便利用者で特に飯能駅南口バスステーション付近に居住している学生にとっては、振替便となる東飯能駅までの移動負担により不満が生じていたものと思われる。

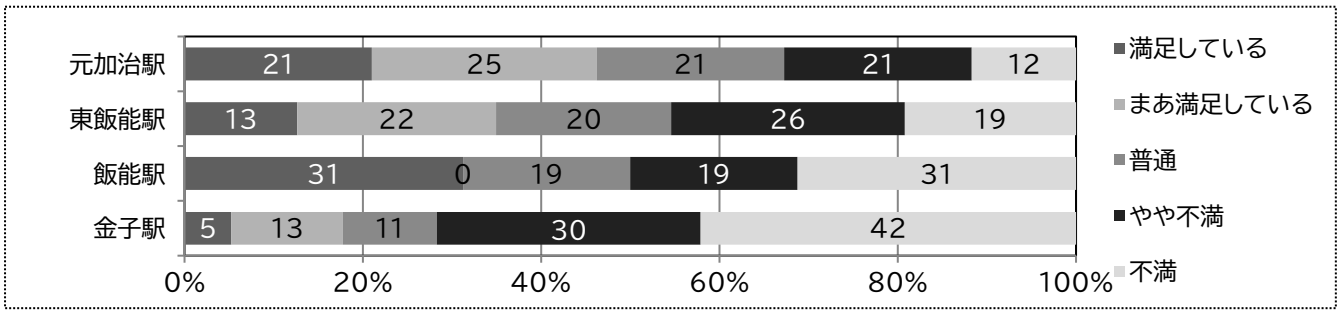

図 26　利用駅別のスクールバス満足度（2023 年）

7. 喫煙について

電子たばこ含む喫煙有無では、（図 27）では、「はい」と回答した割合は 11%であった。

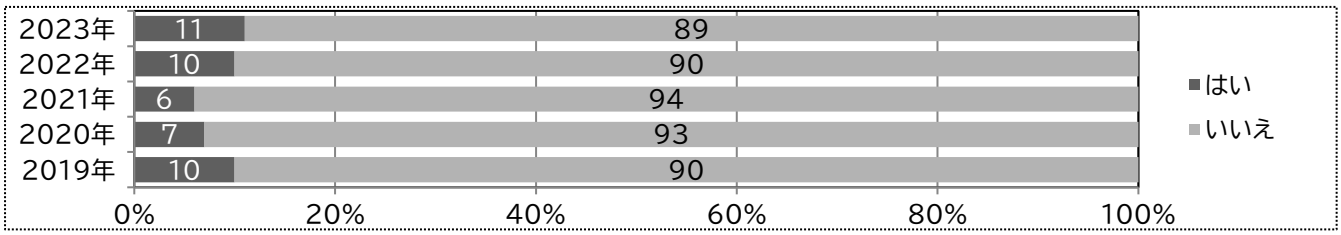

図 27　喫煙有無（2019－2023 年）

8. 所持している電子機器について

2023 年の所持している電子機器（図 28）では、スマートフォンは 97%、自分専用の PC は 84%と 2022 年と大きな変化はなかった。

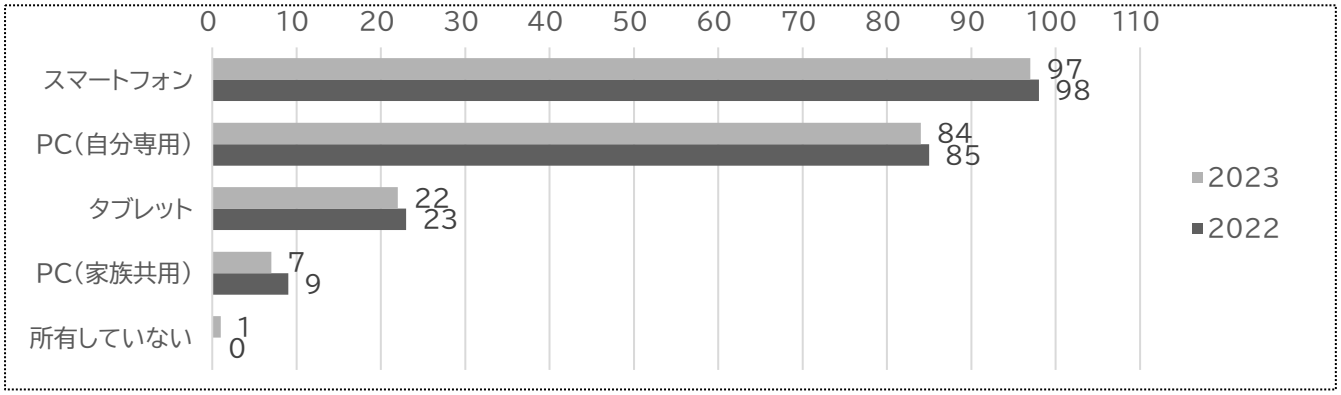

図 28　所持している電子機器（2022 年-2023 年）

9. 学生生活や健康面などでの不安

学生生活や健康面での不安があるか（図 29）について、2023 年では「はい」と回答した割合は 11%であった。2020 年以降、2020 年が 17%、2021 年が 11%、2022 年が 9%と割合が減少してきていたが、2023 年では 2022 年より若干増加した結果となった。

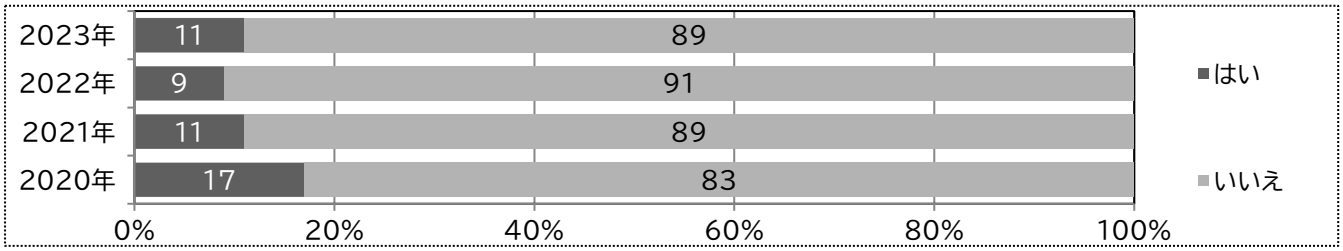

図 29　学生生活や健康面での不安（2020－2023 年）

2023 年の学年別（図 30）で見ると、「はい」と回答した割合は、1 年次が 9%、2 年次が 13%、3 年次が 9%、4 年次が 13%で、2 年次生と 4 年次生の割合が高い結果となっている。現在の 4 年次生は、入学時からコロナの影響を受けた年代ということもあり、入学当初からの不安要素が少なからず残っている学生がいたものと思われる。

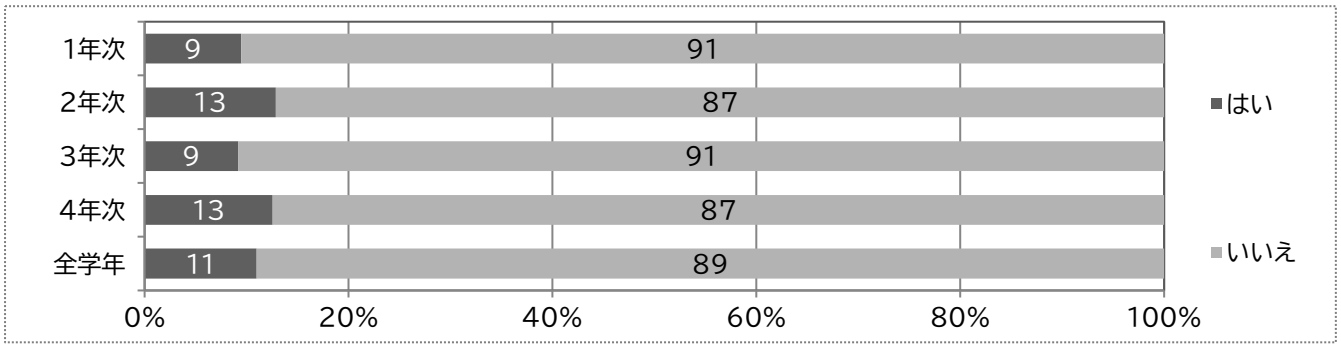

図 30　学生生活や健康面での不安（2023 年・学年別）

2023 年の学部別（図 31）で見ると、「はい」と回答した割合は、法学部、メディア情報学部、スポーツ科学部が 9%、経済経営学部が 10%となっており、心理学部が 19%と一番高い割合となっている。

なお、具体的な不安の中身として、自由記述では 131 件の回答があった。主な内訳として、「健康面（病気、身体の不調など）や精神面・心理的なもの」と思われる回答が 65

件、「学修面（授業、単位、卒業など）や就職」と思われるものが 41 件、「人間関係（友人がいないなど)」と思われるものが 14 件あった。中には「学修面（授業、単位、卒業など）や就職」の不安により、精神面や心理的にも不安に襲われている内容が垣間見える回答も多く見受けられた。

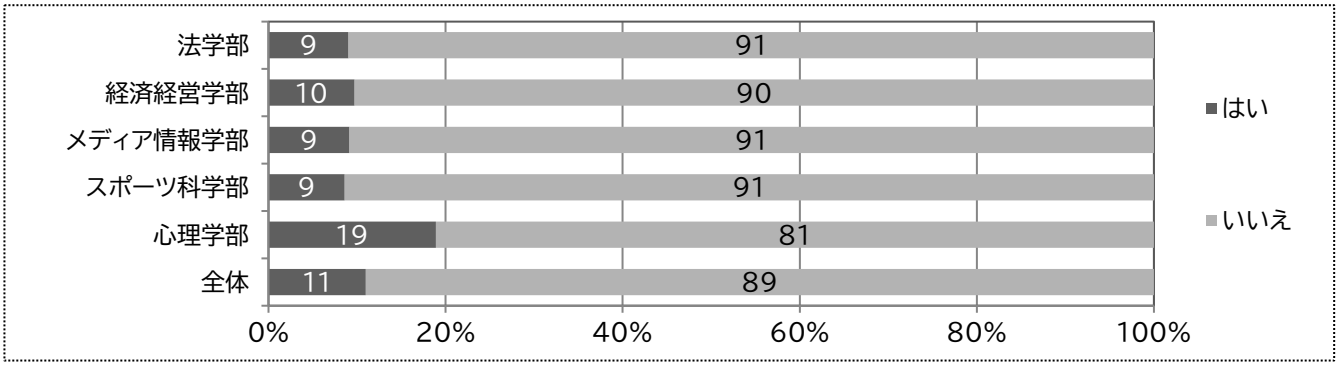

図 31　学生生活や健康面での不安（2023 年・学部別）

また、関連した設問として聞いた学部別の「悩みごとを相談できる友人がいるか」（図 32）では、「いない」と回答した割合が、心理学部が 19％と一番高く、上述の学生生活や健康面での不安がある割合が一番高かった心理学部と相関している結果となった。

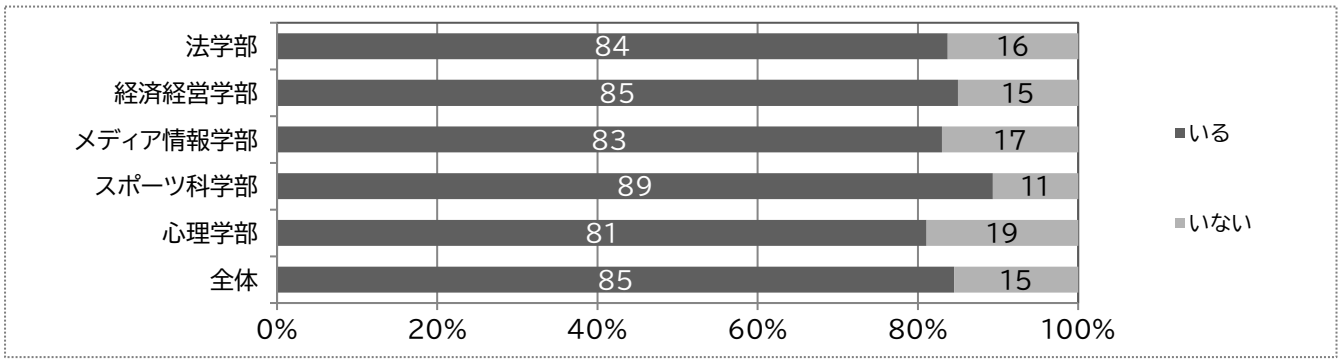

図 32　悩みごとを相談できる友人（2023 年・学部別）

10. 学修面以外での学生生活満足度について

2023 年の学修面以外での学生生活満足度（図 33）では、満足している割合（「とても満足している」「満足している」）が 44％と、2022 年の 41％より若干増加している。

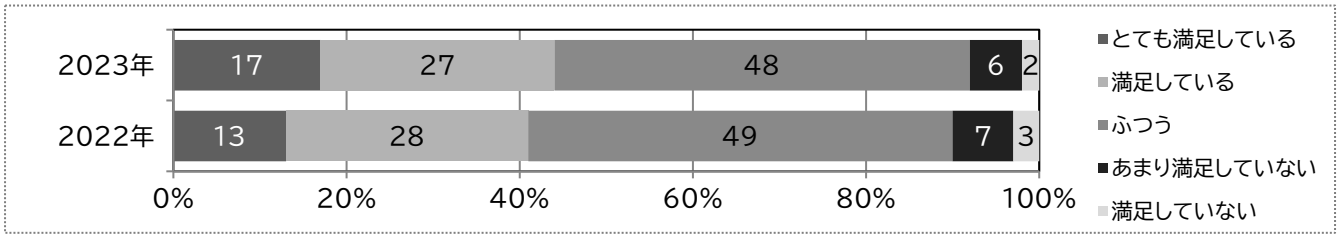

図 33　学修面以外での学生生活満足度（2022 年-2023 年）

学年別の学修面以外での学生生活満足度（図 34）では、満足している割合（「とても満足している」「満足している」）が、1 年次が 46％、2 年次が 44％、3 年次が 44％、4 年次が 37％で、入学時からコロナの影響を受けた 4 年次の満足している割合が一番低い割合となっている。

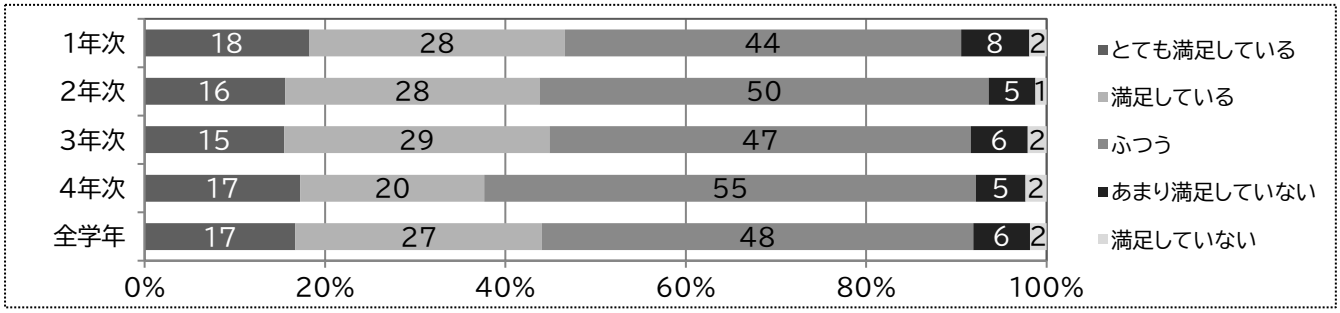

図 34　学修面以外での学生生活満足度（2023 年・学年別）

学部別の学修面以外での学生生活満足度（図 35）では、満足している割合（「とても満足している」「満足している」）が、メディア情報学部が 47％と一番高い割合であるが、「とても満足している」と回答した割合だけを見ると 12％と一番低い割合となっている。

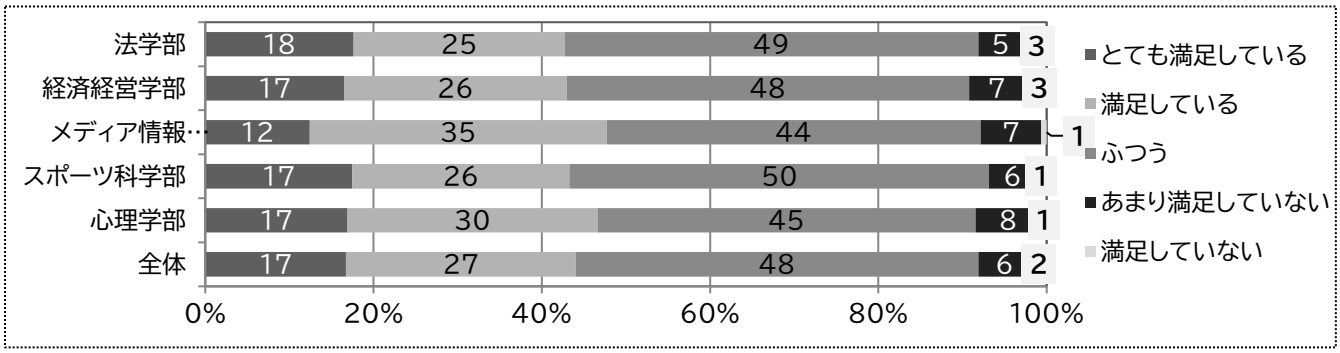

図 35　学修面以外での学生生活満足度（2023 年・学部別）

11. 大学施設やサービスの満足度について

2023 年の大学施設やサービスの満足度（図 36）では、満足している割合が一番高いのは「利用可能 PC やインターネット環境」の 49％で、次いで「図書館」の 34％であったが、2022 年の結果と同様、言い換えればメディアセンターの施設環境に満足している学生が多いと見てとれる結果とも言える。

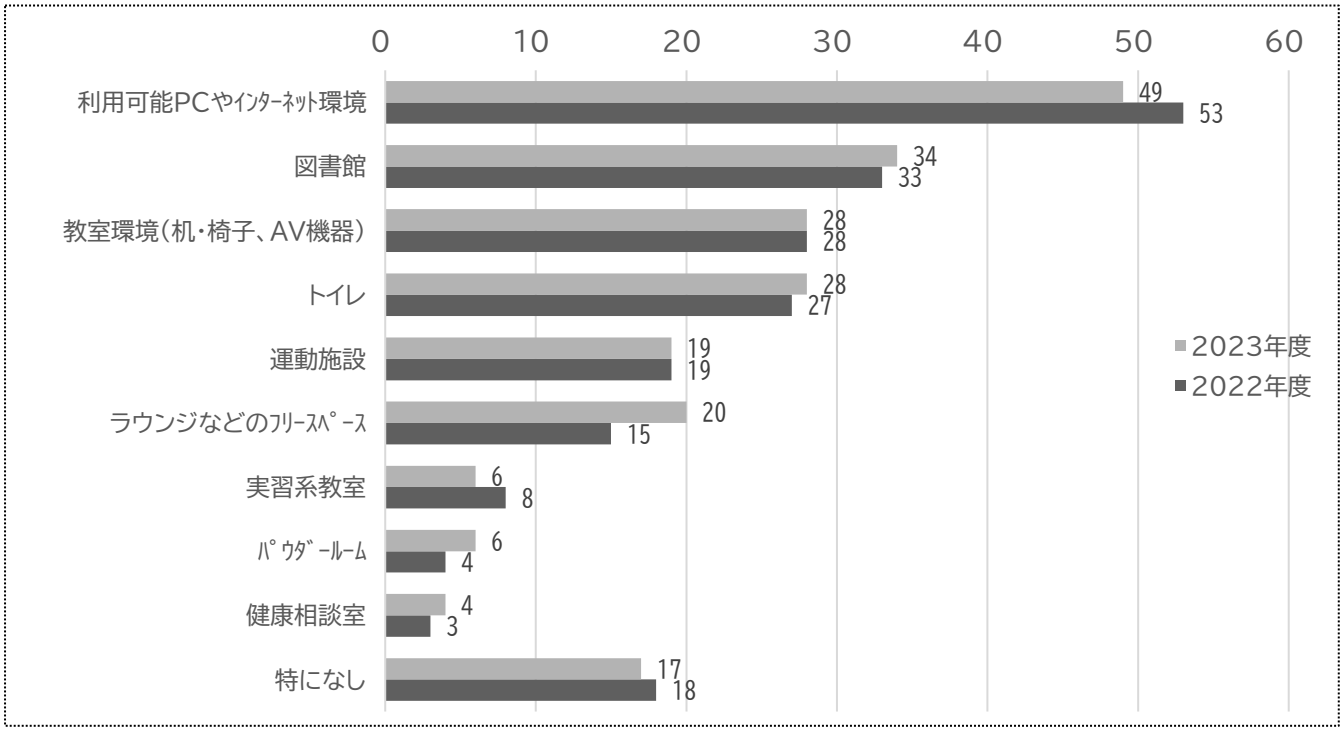

図 36　大学施設やサービスの満足度（複数回答、単位：％、2022 年-2023 年）

12. 大学への愛着度：駿河台大学への入学のすすめ

駿河台大学入学を周囲の人にすすめたいか（図 37）については、2023 年は、すすめる（「強くすすめたい」+「すすめたい」）が 40%、「すすめたくない」は 18%であった。

また、「わからない」と回答した割合が 41%となっており、2020 年が 54%、2021 年が 51%、2022 年が 43%と割合が減少してきてはいるが、特に、2020 年、2021 年では、コロナ禍による入構制限やオンライン授業、サークル活動の自粛などにより、通常の学生生活が送られていなかった状況により、入学をすすめるかどうかも判断できない学生の心境が表れていたとも言える。

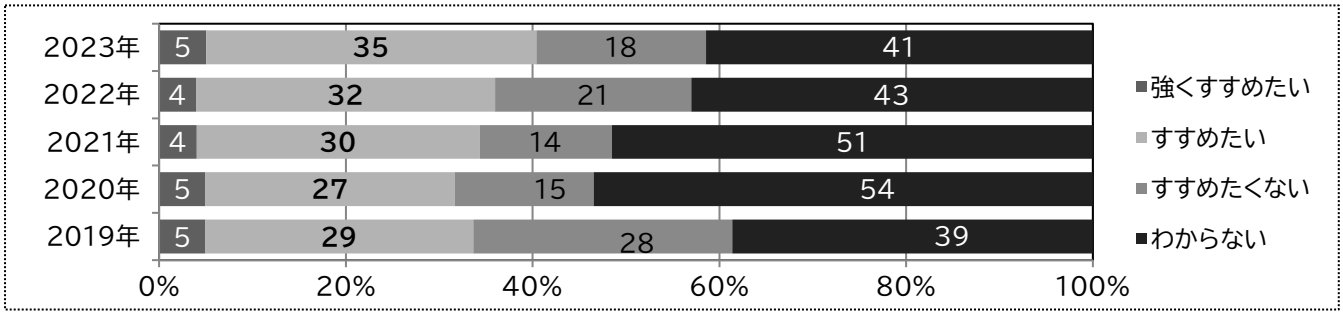

図 37　駿河台大学入学をすすめたいか（2019-2023 年）

学部別（図 38）では、すすめる（「強くすすめたい」+「すすめたい」）の割合が、法学部が 47%と一番高く、次いでメディア情報学部の 45%、心理学部の 41%、経済経営学部の 40%、スポーツ科学部の 37%であった。

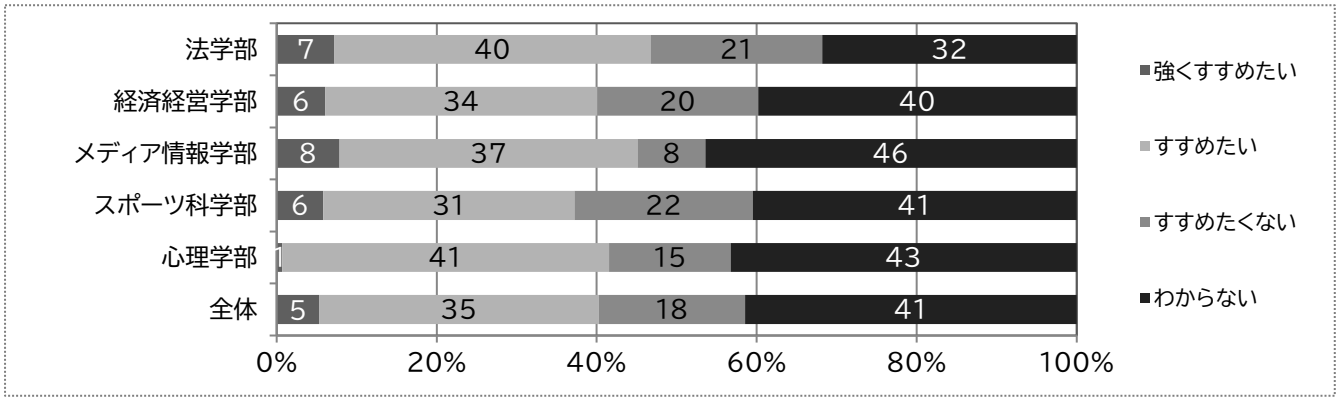

図 38　駿河台大学入学をすすめたいか（2023 年・学部別）

13. クリエイティブライフ（学生手帳）の使用について

今年度の調査では、全学年に年度当初に配布しているクリエイティブライフ（学生手帳）の使用状況等調査（図 39）も行った。「使用しない」割合が 61%と多く、また「知らない」割合も 16%あった。今回の調査結果等を参考に、配布自体の必要性の検討に加え、デジタル社会での配布の意義の再確認や中身（内容）の精査、形式などの検討を進めていく必要があると思われる。

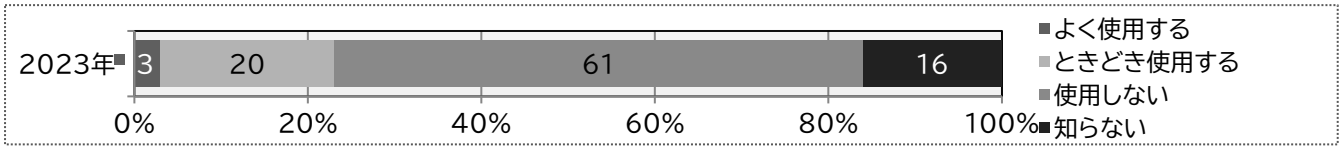

図 39　クリエイティブライフ（学生手帳）の使用頻度（2023 年）

14. 意見要望について

設問項目の最後に、より良い修学環境整備のために自由記述で問うた「意見要望について」では、特になしと記載があったものを除き、212 人から意見要望があった。中には一人で複数の意見要望を出している学生もいたが、その内、圧倒的にスクールバスに関連するものが多く 88 件であった。その他、施設設備や修学環境（トイレや教室の机・椅子・空調、スポーツ施設、喫煙所など）に関するものが 55 件、通信環境（Ｗｉ－Ｆｉ）に関するものが 14 件、学食に関するものが 11 件あった。

スクールバスに対する意見要望は毎年多く見受けられるが、今回の調査では、阿須ガード拡幅工事による 2023 年 9 月 11 日以降の大幅なスクールバス運行体制の見直しにより、特に影響を受けた飯能便や金子便のダイヤ（本数）に関する意見要望が多く見受けられた。

今後も無料スクールバスの運行体制維持を図っていくため、スクールバス運行可能台数やドライバー人員など様々な事情や制約等もある中においても、いかに学生の利便性に配慮した運行体制を維持できるかを検討していくことが望まれる。

15. まとめ

2023 年度の学生生活基本調査は、コロナが第 5 類移行後の調査であったことから、学生生活にどのような変化をもたらしているかを確認する意味でも重要な調査であった。

なお、当初の設定した回答期間での回答率が芳しくない状況であったことから、回答期間の延長を行ったところであるが、最終的な回答率が 39.9％と昨年度（50.0％）調査より、約 10％程度低くなった状況を踏まえ、来年度の調査実施に向け、調査時期や調査方法、設問項目を再精査していく必要があると思われる。

今回の調査結果における学生生活の実態について、大学内で共有を図っていくことはもちろんのこと、学生からの様々な意見や要望などを真摯に受け止め、引き続き、大学全体で学生生活の満足度向上や施設・設備の改善などに努めていくことが望まれる。

以上